



2013年05月号

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編

「脳血管障害(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)について」

名古屋共立病院 脳神経外科部長 青山 国広

平成24年4月より名古屋共立病院で脳神経外科を新設し、脳卒中を中心に血管障害の治療、手術を行っています。これから、地域での脳疾患の治療に貢献し、24時間体制での救急医療の提供と急性期治療からリハビリテーション、そして社会復帰まで一貫したチーム医療を行うことを目標とし、脳神経外科疾患に対し専門的治療を提供していきます。



1. はじめに

日本透析医学会の調査において、日常生活活動度が50%以下に低下している方(歩行や身のまわりの事はできるが、時に少し介助のいることもある方。軽労働はできないが、日中の50%以上は起居している方)が、**全患者さんの25.4%**であると報告されています。ADLを低下させる要因としては脳血管障害や動脈硬化症など血管病変によるもの、脊椎の圧迫骨折や大腿頸部骨折など骨折によるもの、または認知症や視力障害によるものなど様々な要因があります。今回は特に脳血管障害についての病態、予防について書かせて頂きます。